

令和4年度夢チャレンジ採用者一覧

対象部門	学年・学部	代表者氏名	チャレンジテーマ	実現したい夢
はじめの 一歩 部門	環境ツーリズム学部 3年	中尾 幸正	長野県内にAYA世代（15歳から39歳の間にがんを経験した人）のコミュニティを作る	長野県に住む、病気を経験した若者どうしでつながりたい。
	環境ツーリズム学部 3年	野原 那月	浅間山における高山植物と昆虫類をめぐる送粉ネットワークを探る	地球温暖化による生態系のバランス崩壊が近年問題視されている。特に高山植物は、その影響を受けやすいため、良好な種子繁殖ができずに子孫を残せなくなる可能性がある。それを防ぐために、まず身近な浅間山の高山植物と、それらの種子生産に必要な花粉媒介に関わる昆虫類をめぐる送粉ネットワークを、花粉媒介者である昆虫類の体に付着した花粉をDNA解析することによって明らかにしたい。 また、今回の夢チャレンジで、植物と昆虫の調査とデータ解析、リーフレットを作成することで力を養い、将来は、野生動物全般を保全する仕事に就きたい。
さらなる 飛躍 部門	環境ツーリズム学部 3年	新井 梓	ニホンジカによるツツジ科小低木4種の枝葉・果実利用：浅間山の事例 自然観察指導員講習会への参加	ニホンジカの高山帯への進出状況と植生を把握するとともに、高山帯の占有種であるツツジ科小低木（ガンコウラン・クロマメノキ・シラタマノキ・コケモモ）を対象にニホンジカによる枝・葉・果実利用と種子散布について、センサーカメラを用いた調査、シカ糞のDNA分析による食性分析、シカ糞の内容分析（主に種子のハンドソーティング）、動物園での摂食実験、排泄された種子の発芽実験などの方法を用いて明らかにしたい。 また、それらの成果をリーフレットなどにまとめ、ニホンジカの生態や生態系における種子散布者としての役割などを社会に広めたい。 また、私は将来ネイチャーガイドになって、自然やニホンジカについて人々に伝えていきたいと考えている。そのためには、日本自然保護協会主催の自然観察指導員講習会に参加し、自然観察や指導員としての知識や経験、技術を身につけていく必要があると感じた。この講習会で学んだ事、身につけたことを活かして、自然の本質を広く社会に伝え、自然の事について考えるきっかけや。自然に興味を持つきっかけを作れるようなネイチャーガイドになりたい。 また、ガイドになった暁には学生生活で研究してきたニホンジカについてたくさんの人に伝えていきたい。
	社会福祉学部3年	久保 穂香	小中学生の場面緘黙当事者に向けたホームページ作成と、場面緘黙児の発話練習に使えるコミュニケーションカードの原案作成	場面緘黙とは「家庭ではごく普通に話すのに、幼稚園・保育園や学校などの社会的な状況で声を出したり話したりできない症状が続く状態」（かんもくネット）をいう。 ①場面緘黙の子どもの発話練習に使えるコミュニケーションカードのサンプル作成 昨年、作成した場面緘黙の子ども向けコミュニケーションカード（カードに書かれている質問について答えていくカードゲーム）の原案を、実際に場面緘黙の子どもに評価してもらう。その結果を集計・分析し、コミュニケーションカードのサンプルを作成していきたい。 ②ホームページを活用した場面緘黙の情報共有 昨年、作成したホームページを活用し、場面緘黙当事者は「こんな、困っていることがある」ということを発信したい。また、コミュニケーションカードの進捗を発信するなどして、ホームページを積極的に利用していきたい。さらに、自分たちで気づいた点や読者からの言葉があれば、フィードバックし変更を加え、より良いものにしていきたい。
	社会福祉学部4年	野村 達也	「障がいによるハンデを抱える方でも誰もが楽しめるモルモックを作る～誰でも楽しめる体験の提供と共有～」	「障害を抱える方でも誰もが楽しめるモルモックを作る～だれでも楽しめる体験の共有と提供」 昨年のチャレンジから、実際の活動を通じてモルモックは老若男女に楽しんでもらえるスポーツであると感じていた。しかし活動中「モルモックは障がい者スポーツではない」と指摘をもらい、また地域の方や学生と言った一般的健常者を対象にモルモック体験を行ってきたため、活動の反省より障がいのある方でもできるモルモックの方法について考えてみてはとの意見があった。活動成果ではモルモックを通じての多様性（ダイバーシティ）が発見された中、障がい者への多様性を認めたモルモックではないと感じ、今年度の夢チャレンジでは「障がいによるハンデを抱える方でも誰もが楽しめるモルモックを作ることを目標に、新しいモルモックの作成と動画による周知を行いたいと考えている。加えて、今年度のトントッププロジェクト来場者や大学内外の方々に新しいモルモックの体験と周知を実施したいとも考えている。